

◆第1報告

【報告タイトル】

看護師の離職をめぐる労働コンフリクト

—「転職口コミサイト」を通じた「日本的ジョブ型労働」の視点から—

【報告者】

鹿島謙輔（放送大学大学院修士課程・医療法人社団景翠会）

【報告要旨】

看護師の離職研究は主に看護学で担われ、その研究目的は「離職の防止」にある。先行研究から析出される離職要因は「過酷な労働条件」や「やりがい・自己効力感の喪失」「バーンアウト」といった心理的状況の列挙に止まる。そして、離職防止課題に対し、看護管理による組織内改善と、心理学的解釈により解決を試みる傾向が強い。以上により、離職研究において不足している臨床外・社会状況的な側面を整理し、経営学・社会学的な視点、メンバーシップ型／ジョブ型労働社会論から分析を課題設定とした。

調査対象は「転職口コミサイト」とし、その内容分析を行う。調査対象の選定理由は、看護師の転職過程において就業情報を得るための重要なメディアツールとして成長しているためである。また、筆者の参与観察的勤務経験（中小病院事務職）から得られた事例に基づく考察を加えた。

◆第2報告

【報告タイトル】

労働社会学の観点からみる大学教員昇進差別

—広島大学教員殺人事件を事例として—

【報告者】

矢野裕子（京都西山短期大学）

【報告要旨】

非正規雇用の問題が顕在化されてきた一方で、職場で周辺化されている正規雇用の労働者の問題はまだまだ顕在化されていない。そこで、本稿では、正規雇用であったにもかかわらず16年もの間、大学の助手という周辺化された労働者の事例を用いて考察する。

労働組合の役員らに広島大学教員殺人事例の概要を読んでもらい、労働組合として事件が起こる前に助ける方法があったのか、あるとすればどのような方法が考え得るのか、インタビューを行う。調査の時期は、2021年11月15日から1月31日までとする。得られた意見について暫定的にまとめ、本事例の事件の場合、労働組合は周辺化された労働者である助手Aが殺人事件を起こす前に、救済することができなかったのか否かを考察し、労働組合が昇進差別問題に介入しうるのかどうかを検討した。